

論文様式

[ふりがな]	てらもと ゆずる
[氏 名]	
寺本 譲	

受験番号	※
------	---

(※欄は記入しないでください)

課題 現在の区行政の課題と、その解決策について (字数 2,000 字程度)

現在の区行政の課題としては、令和 5 年 6 月に区長会議から公表された「区政がめざす姿（令和 5～8 年度）」の中で、地域活動協議会の更なる活性化や区政への区民参画の充実、町会加入率の低下、今後のDXの推進などが示されているが、これまで市政に関わってきた私としては、「区・局の一体的な行政運営の推進」を取り上げたい。

なぜ、「区・局の一体的な行政運営の推進」を取り上げたかということ、行政ニーズが多様化、複雑化する昨今において、本市の予算も職員も大幅に増やせない中で、行政ニーズへのスピーディーな対応においては、「区と局との情報の共有」が今後ますます重要であり、必要不可欠であると考えするためである。この点、「区政がめざす姿（令和 5～8 年度）」でも、今後の方向性として、「毎年度、局の意思決定プロセスへの区長参画の推進」とされており、私もその通りであると認識している。その一助として、「区と局との情報の共有」に向け、より具体的な手法の提案が求められている。

区シティ・マネージャー（以下、区CM）制度は、平成 24 年から導入され 10 年が経過し、当初からこの制度は変わっていない。私が、平成 24～25 年度に都市計画課長として、市域全域の都市計画道路や公園の見直しに当たって、ほぼ全ての区CMに説明に赴いた。当時、区CM制度の導入当初ということもあり、各区長のやる気、モチベーションが非常に高かったことが強く印象に残っている。民間出身の公募区長も多く居られ、皆さん熱心に勉強され、区長から頻繁に呼び出され、区役所に日参したことを記憶している。

その後、平成 26～27 年度に建設局東部方面管理事務所長として、市域東部の 7 区（都島、城東、旭、鶴見、東成、生野、天王寺）の道路、公園、下水道の維持管理に従事していた時にも、区内のインフラ施設の課題や区CM予算等について、区長と協議・調整をしてきた。

現在も、私が所管する計画調整局の業務においては、地域拠点の開発誘導や交通バリアフリー基本構想の見直し、都市景観資源の有効活用、老朽危険空き家の解消などにおいて、区長会議の部会等を通して、区CMと緊密に連携しながら、課題解決やより一層の施策推進に努めてきている。

このような私自身の行政経験も通じて、今後も市政として多様化、複雑化する行政ニーズに、スピード感を持って対応していくためには、直接、区民に接する機会の多い区役所が、区民の「生の声」をスピーディーに局に伝えることが、より一層重要になってくると考えている。

例えば、私が東部方面管理事務所長だった頃、各区の行政連絡調整会議に参画し、区内の情報に接することができ、市民ニーズをととても身近に感じることができた。この会議は、区長が主催で、方面管理事務所、消防署、環境事業センター、水道センター、市税事務所、校長会などの市関連の部署だけでなく、警察署や地元の各種団体など、各部署と各主体から区内の報告があり、区内の情報共有の場として非常に有効であると感じた。ただ、メンバーが多いため、課題解決の議論には物足りなさを感じることもあったことから、メンバーを絞った場も設定し、もっと現場での課題解決にこの場を積極的に活用することが重要であると考えている。

加えて、局室長を指揮監督する立場から区CMの指示等が、区長会議などを通じて局室長に伝わることはもちろん大事であることは言うまでもない。また各区の個別課題もスピーディーに局に伝わる、逆に、局の新たな施策も区に伝わるといった仕組みを整えるべきではないかと考える。そのため、区CMと局室長との「各区行政課題懇談会」を組み込んではどうかと考える。局室長が24区長と懇談することも時間がかかることから、複数区を1つのブロックとした懇談会形式を取らざるを得ないかもしれない。さらに副区長と担当部長との「副区長・担当部長会」や担当課長級での「課題検討会」といった各職階での仕組みも考えていきたいところである。

私の携わった地域拠点の開発誘導では、地元情報の収集と開発気運の醸成は区で、計画を実現する手法は局でと、まちの発展を統一した目標として、一丸となって検討するという関係性が生まれつつある。

いずれにしても、これからの行政課題の解決にあたって、これは区とか、これは局とか、バラバラに対応しては、解決は困難ではないか。区と局の双方が知恵を絞り、一丸となって行政課題に対処していくことが非常に重要であると考えている。